

高大接続改革への 「高校の挑戦」

Career Guidance
キャリアガイダンス



College Management
カレッジマネジメント

3月末日、高大接続システム改革会議の最終報告が取りまとめられた。実現に向けては、乗り越えなければならないハードルがいくつも存在しているのも事実である。それでも、大きな改革は確実に動き始めている。今回の改革は、入試制度改革が話題を集めているが、本質的な目的は、大学入学者選抜を変えることで、高校と大学の教育とその接続のあり方を、三位一体で変えていこうというものである。高校も、大学も、それぞれに様々な改革が進められている。しかし、大学や高校は、お互いどのような変化が実際に起こっているのか、あまり共有されていないように思える。そこで、今回は、大学経営層を读者に持つ「カレッジマネジメント」と、高校教員を读者に持つ「キャリアガイダンス」というリクルートが発行する2つのメディアが合同で、高大接続改革の特集を組み、大学には高校の変化を、高校には大学の最新動向を伝える企画とした。

例えば、高校は大きな山が動き出すかのように、少しずつだが確実に動き始めている。いわゆる進学校や進路多様な学校、普通科だけでなく実業系高校も。従前の偏差値というモノサシから多面的・総合的評価に変わること、評価は一変する可能性がある。これからの社会の中で求められる力を身につけるために、どんな力をどう育めばよいか。教科や学校という枠組みを超えて、社会とのつながりを通じて、知識の「習得」から、「活用」「探究」へ。動き出した高校の教育の

変化にぜひ注目して頂きたい。ただ、高校サイドに戸惑いや疑問がない訳ではない。払拭できない1つの疑問。それは「本気で大学が変わるのだろうか」という問いだ。さて、大学サイドはどんな解を提示するのだろうか。

一方、大きな社会環境の変化の中で、大学も動き始めている。多くの大学でプロジェクト学習などを重視する「教育の質的転換」が進みつつある。一人で学習する場だった図書館は、他のメンバーと意見を交わしながら、得た知識を発展させる場としての「ラーニングコモンズ」に生まれ変わっている。海外との提携校を増やすとともに、留学プログラムも充実させている。各大学は、それぞれの果たす役割や価値を明確化し、社会のニーズに合致した学部・学科の再編も活発である。

こうした高校の動き、大学の動きは、お互いにきちんと伝わっているだろうか。高大接続改革の成功には、高校、大学の相互理解が不可欠である。今回の特集が、将来に向けた、より良い高大接続の一助となれば幸甚である。

カレッジマネジメント編集長
小林 浩
キャリアガイダンス編集長
山下真司

CONTENTS

- 6 将来、必要とされる力をどのように育むか
新しい教育のあり方を追求する“Education 2030”
田熊美保 OECD 教育局 シニア政策アナリスト
- 10 **未来社会を創造する資質・能力と高大接続システム改革**
合田哲雄 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課長
- 15 **高校教育改革の本質と高校現場の現状**
荒瀬克己 大谷大学教授
- 20 CASE 1 **富士市立高等学校**
校訓「考えよ」を実践する「探究心」の育成 富士市立高校の課題解決型学習
- 24 CASE 2 **かえつ有明中・高等学校**
21世紀型の学習と入試で育むクリティカルシンキング
- 28 CASE 3 **大阪市立 大阪ビジネスフロンティア高等学校**
大学と連携した7年間のカリキュラムで学生の学ぶ意欲と専門性を伸ばす
- 32 REPORT **京都工学院高等学校**
高校の枠を超えた大学・企業との連携で、最高の工学系「ものづくり」教育を目指す

Career Guidanceとは
高校生の主体的な進路選択を応援する
進路担当教員・校長・教頭・副校長、クラス
担任、保護者に向け、進路指導・キャリア
教育に役立つ情報をお届けしています。
<http://souken.shingakunet.com/>